

芸豪烈伝その10 富士琴路 ふじ・ことじ

「旦那様は三味線ですよ」

写真・森 幸一 文・おさだ衛



ふじ・ことじ。本名・渡辺京子。東京は墨田区生まれ。父はトビ職だった。富士乃高子（中条琴路）に師事。12歳で浪曲デビュー。熱血激情敢闘精神の持ち主。趣味は、あみものと読書。好きな作家は山本周五郎、池波正太郎。「人情が感じられ庶民的で、物語に色気がある作品がいいわね」。

東京の浪曲界には、おめでたい正月の初夢をもじって、こんないいかたがある。

いち富士（琴路）、二（澤）孝子、三門柳、だ。

浪曲に命をかける美的浪曲師のことである。

日本いちの名山、霊峰・富士の名前

をいただく富士琴路。

富士の名前はダテじゃない。浪曲の真髓を、絶頂を極めようと日夜、修行にいそしんでいる。

「浪曲は一人芸で、演者の力が試されます。勉強不足や台本の読み込みが足りないといと、お客さんには受けません。自分の生き方や心のあり方が舞台上に反映します。舞台では自分の真価が問われます。むずかしいですが、やりがいがありますね」

はな咲き、はな散るホトトギスで浪曲のキャリアが50年。舞台上上がる直前にはいまでも「バンジージャンプ」をするような緊張感がある。芸の前に常に謙虚でありたいと願っている。

私生活では離婚を経験、子育てのために8年間、浪曲と縁を切ったこともあった。

人生の哀歓を、男女の愛憎を、良い芸とはなにかを琴路は身をもって知っている。

十八番のネタ「相寄る心」ではラストシーンで人間愛が感動的に高らかにうたわれる。

「太刀山と清香」では、えんえんと節が歌いつがれるバラシが堪能できる。

「尾崎罌堂の初恋」では女性の業の深さが語られる。琴路の浪曲は、観客のライフステージにより、さまざまな楽しみ方が可能だ。琴路の人生が起伏に富み多角的多面的だからだ。

琴路は声量が乏しく美声とはいえない





木馬亭の楽屋で。三味線の名手・伊丹秀敏（浜乃一舟）と独身談義に花が咲く。「琴路さん、独身が長くて淋しくないの」「心配しないで。浪曲と三味線があるわ」

い、舞台も華々しいとはいえないが、研究と精進と努力で、演題をわかりやすく現代的にしている。琴路の浪曲を聞いて損な思いをしたことがない。「浪曲師は女としては立派な職業です。私は誇りをもっていますよ。浪曲に出会えて私は幸せですよ。」

浪曲界に復帰した昭和49年、これからは舞台に關することはなんでも覚えようと決意したんです」

三味線を弾きはじめたのは昭和40年前後で、

「三味線が浪曲についてきてくれないと、浪曲の魅力は半減します。それなら、まず自分で演ってみよう」と

琴路は木馬亭の定席で三味線をつとめている。曲師不足のいま、ここでも琴路の存在は貴重だ。

琴路のもうひとつの喜びと苦勞は後進の育成と指導だ。

鳳舞衣子、五月和千代、富士鷹雄のみならずプロ・アマを問わず多くの後輩たちを指導している。

琴路は己に厳しただけに弟子たちにも容赦がない。

「稽古のとき、へんにお利口さんになつていて、やる前からできませんって言うの。」

日本の歴史や慣習や約束事を知ろうとさせんねえ。そういうことを知らないと浪曲がつとまらないんです。

それと前向きにドーンと体当たりをしないでですね。頭でだけ考えて、こちらの言うことをやろうと思わない。

とにかく大きな声を出しなさいと言っています」

琴路師の尻馬に乗って言うと、東京の若手に演題の内容を理解していない演者が少なくない。一尺はなんセンチか、天保元年は西暦なん年かなど辞書を引けばわかることを怠っていて恥じない。演題の原作を読んだり芝居を見ない、または関心を払わない———かに見える。

「声を威勢よく出して、素直にやることが肝心なんです。」

浪曲の世界に、私が師匠に教わり自分でやってきた土台だけは残しておきたいですね」

琴路師の一人娘は東家浦若師の子息と結婚。孫もできた。娘夫妻は「おば



「15歳の頃、舞台上でネタを忘れて泣いちゃった。港家華柳丸師匠の浪曲に聞きほれて幕を引き忘れたい、引き幕の中に寝てしまつたり」と舞台の思い出はつきない。

「でもね、そこは千葉県の銚子の近くでして。まだまだ引き込む気はないんです」

独り身を長く保つていて恋はどうなっているんでしょう。

「正直いつて頼れる人は一時は欲しいとは思いましたが、いまは芸が恋人なんです。いえいえ、本当ですよ。三味線が旦那様なんです。芸道一筋にいきたいですよ」

好きな言葉は「グチをこぼす前に働け」とは、いかにも行動派らしい。

十年後は「まだまだ浪曲でがんばっているはずですよ。」

浪曲も可能性は無限です。浪曲の楽しみを富士山登頂にたとえれば、四合目程度しか世間の人は知らないですね。これからですよ」

浪曲…これほどすばらしい芸は他にはないと思います。

10/52

浪曲家の皆さん…頑張ってください。多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉